

【28】平成30年度 大学院シラバス

<p>専攻分野/コース (英文名)</p>	<p>外科学(呼吸器外科) (Chest Surgery)</p>
<p>研究指導教員</p>	<p>(代行) 伊 東 文 生</p>
<p>研究・教育の概略</p>	<p>呼吸器外科の対象となる疾患の中心を占めるのは肺癌である。本邦では人口の高齢化に伴い、急増しており、癌死原因の第一位を占め、その克服は急務である。非小細胞癌治療の主体は外科治療で、新規呼吸器外科医の参入が期待されている。大学院においては肺癌に対する生物学的理解を基礎として、臨床的技能としての診断技術、外科手技、術後管理などを学習する。また、縦隔腫瘍、胸壁腫瘍、嚢胞性疾患など、その他の呼吸器外科対象疾患についても理解を深める。</p> <p>呼吸器外科大学院として、具体的には3ヶ月間づつ2回の学習期間を設け、手術手技と術後管理を中心に時間を割り当て、同時に画像診断、気管支鏡手技を習得する。</p> <p>基本的な臨床実習終了後には、呼吸器外科疾患に関連した研究課題をテーマとして学位論文を作成する。研究の進行状況は、指導教授と綿密に討議しつつ定期的な研究発表会を通じて検討され、実験方法や、内容の修正が行われる。場合によっては大学院卒業までに1-3ヶ月間ベッドフリーとなり、実験の仕上げと学位論文の作成にあたる。</p> <p>学位取得前に、外科専門医申請が可能な症例数を経験し、外科専門医試験を受験する。</p>
<p>研究項目</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 肺癌遺伝子異常と発癌機構の解明 2. 微量検体を用いた分子生物学的肺癌診断 3. 超音波気管支鏡による肺癌診断 4. コンピューターによる画像自動診断 5. 胸壁腫瘍の超音波診断 6. 人工気管の開発 7. 再生医療による気道・肺疾患の治療 8. 人工胸膜による嚢胞性肺疾患の治療 9. 肺癌に対する縮小手術の検討 10. 肺癌に対する拡大手術の検討 11. 肺癌外科治療における分子標的治療の役割 12. 肺癌における腫瘍免疫 13. 肺癌における cancer stem cell の役割
<p>準備学習(予習・復習)</p>	<p>実習や講義を受けるにあたっては、指定された教科書などを中心に学習内容をあらかじめ予習しておく必要がある。また、学習内容を定着させて自己のものにするために毎日の復習を欠かすことはできない。</p>

学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(1)

講義コード	※	専攻分野	外科学(呼吸器外科)		
講義題目	呼吸器外科クリニカルラーニング		必修/選択	必修	
担当教員	佐治 久	担当教員連絡先	内線 3336		
単位数	2単位(3ヶ月・1、2、3月)	履修年次	1年・2年		
テーマと目的	呼吸器外科の手術症例を中心に検討を行い、病態、画像診断、手術適応、治療方針、術前術後管理などについて学習する。				
講義計画	呼吸器外科疾患の病態、画像診断、治療法に関して解説する。				
達成目標	呼吸器外科疾患の病態を理解し、適切な画像診断を選択して読影できるようになる。さらに、治療方針、手術適応、術前術後管理を習得する。				
教科書・参考書	呼吸器外科学 (改訂3版、南山堂)				
準備学習(予習・復習・時間)	あらかじめ上記教科書の内容を予習し、講義内容は自宅で復習する。1時間				
成績評価法	出席と最終試験				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	呼吸器外科診断学総論		1		
2	呼吸器外科疾患診断学各論(1)		2		
3	呼吸器外科疾患診断学各論(2)		3		
4	呼吸器外科疾患診断学各論(3)		4		
5	呼吸器外科疾患診断学各論(4)		5		
6	呼吸器外科疾患治療学総論		6		
7	呼吸器外科疾患治療学各論(1)		7		
8	呼吸器外科疾患治療学各論(2)		8		
9	呼吸器外科疾患治療学各論(3)		9		
10	呼吸器外科疾患治療学各論(4)		10		
11	呼吸器外科疾患治療学各論(5)		11		
12	試験、評価		12		
13			13		
14			14		
15			15		

講義担当者承認 ◎

学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(2)

講義コード	※	専攻分野	外科学(呼吸器外科)(実習)		
講義題目	呼吸器外科手術スキル実習		必修/選択	必修	
担当教員	佐治 久	担当教員連絡先	内線 3336		
単位数	1 単位(3ヶ月・1、2、3月)	履修年次	1年・2年		
テーマと目的	呼吸器外科の専門手術手技を実習する。				
講義計画	専門講師による手術手技実習指導。				
達成目標	呼吸器外科の基本的手術手技と各疾患の特殊な手術手技の習得。				
教科書・参考書	呼吸器外科学 (改訂 3 版、南山堂)				
準備学習(予習・復習・時間)	あらかじめ上記教科書の内容を予習し、講義後は自宅で復習する。 1 時間				
成績評価法	出席と最終実技試験				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席ⓐ)	後期(回)	内 容	(出席ⓐ)
1	呼吸器外科手術手技実習(1)		1		
2	呼吸器外科手術手技実習(2)		2		
3	自然気胸手術手技ビデオ研修		3		
4	開胸下自然気胸手術手技実習		4		
5	胸腔鏡下自然気胸手術手技実習		5		
6	肺癌手術手技ビデオ研修		6		
7	肺癌手術手技研修(1)		7		
8	肺癌手術手技研修(2)		8		
9	肺癌手術手技研修(3)		9		
10	縦隔腫瘍手術手技研修		10		
11	手術手技総括		11		
12	試験、評価		12		
13			13		
14			14		
15			15		

講義担当者承認 ㊦

学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(3)

講義コード	※	専攻分野	外科学(呼吸器外科)	
講義題目	呼吸器外科 診断実習		必修/選択	選択
担当教員	丸島秀樹	担当教員連絡先	内線 3336	
単位数	2単位(前期1・後期1)(水曜日)	履修年次	2年	
テーマと目的	呼吸器疾患診断手技実習として気管支鏡、胸部超音波検査を習得する。			
講義計画	内視鏡専門医による技術指導と実習			
達成目標	内視鏡手技、胸部超音波検査を習得し、呼吸器診断学を学習する。			
教科書・参考書	気管支鏡 第2版 日本呼吸器内視鏡学会編 (医学書院)			
準備学習(予習・復習・時間)	あらかじめ上記教科書の内容を予習し、講義後は自宅で復習する。 1時間			
成績評価法	出席と最終試験			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席Ⓜ)	後期(回)	内 容 (出席Ⓜ)
1	呼吸器の解剖		1	院内感染防止
2	呼吸器の生理		2	気管支鏡実習(1)
3	気管支の命名法と肺区域		3	気管支鏡実習(2)
4	気管支壁の構造		4	気管支鏡実習(3)
5	気管支鏡検査の目的		5	気管支鏡実習(4)
6	気道の局所麻酔法		6	気管支鏡実習(5)
7	気管支観察法		7	気管支鏡実習(6)
8	気管支壁病変の生検法		8	気管支鏡実習(7)
9	経気管支肺生検の目的		9	気管支鏡実習(8)
10	経気管支肺生検の方法		10	胸部超音波実習(1)
11	経気管支肺生検の合併症		11	胸部超音波実習(2)
12	超音波気管支鏡の原理		12	胸部超音波実習(3)
13	超音波気管支鏡の方法		13	胸部超音波実習(4)
14	気管支鏡検査と炎症		14	胸部超音波実習(5)
15	気管支鏡検査と腫瘍		15	気管支鏡、超音波実技評価

講義担当者承認

